

いわき海域におけるムラサキウニの生息状況

福島県水産海洋センター 漁場環境部

1 部門名

水産業－資源管理－採貝藻

2 担当者名

千代窪孝志

3 要旨

ムラサキウニ（キタムラサキウニとは別種）の地理的分布は本邦太平洋側では千葉県以南（茨城県は稀）の暖水域とされてきたが、2022年に本県のいわき市南部で生息が確認された。2023年以降は確認された地区と個体数が増えており、分布域が拡大していることが示唆された。

(1) 本県におけるムラサキウニの生息は2022年にいわき市の南部（小浜地区）で小型2個体が確認された以降、2024～2025年はいわき市中南部（豊間、中之作。四倉は聴き取り）でも確認された。

(2) 2022年以降に確認されたムラサキウニ57個体は、キタムラサキウニ漁場から採捕された個体であり、同所的に生息することが確認された。なお、キタムラサキウニが減少している地区から、相対的にムラサキウニの割合が増えているとの報告が複数あった。

(3) 2022～2025年に確認されたムラサキウニの年齢は2～7歳と推定され（図1）、2017～2023年級まで連続した年級であったことから、2017年以降に稚子の継続的な加入があったことが示唆された。

(4) 2017年秋以降、黒潮続流の北偏と沿岸への暖水波及が長く続いたことにより、ムラサキウニの浮遊幼生が本県沿岸に輸送され、生残した可能性が考えられる。

(5) 生殖巣の観察から配偶子の放出期と推定される個体が複数確認されたことから、本県沿岸で再生産している可能性がある。

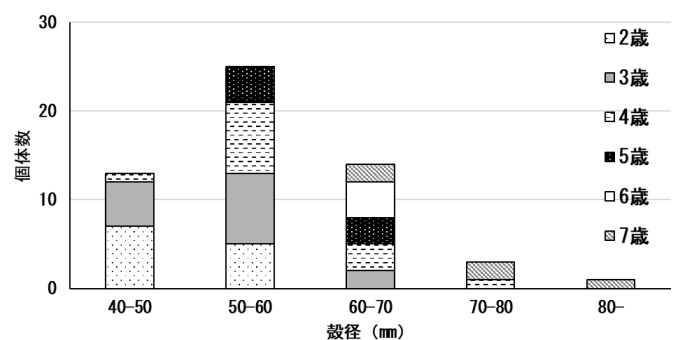


図1 殻径階級別の年齢組成

4 成果を得た課題名

(1) 研究機関 令和3～7年度

(2) 研究課題名 アワビ資源の増殖・管理に関する研究

5 主な参考文献・資料

(1) いわき沿岸でみられたウニ資源の減少と他の磯根生物の特異現象.藤田恒雄. 令和4年度参考となる成果.